

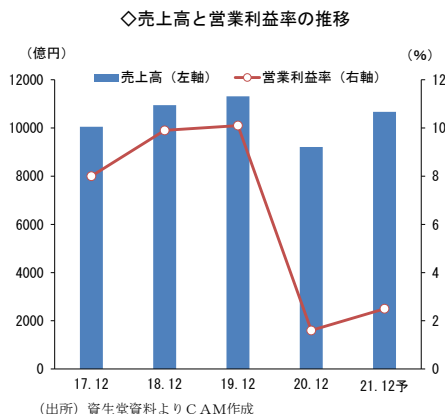
# 企業ニュース 資生堂

(東証1部: 4911) <https://corp.shiseido.com/jp/>

作成者: 高見澤晶子

## 2023年度の「完全復活」を目指す

大手化粧品メーカー。21. 12期・第2四半期累計のセグメント別売上高構成比は、日本29%、中国28%、アジアパシフィック6%、米州11%、欧州10%、トラベルリテール（空港・市中免税店などの販売）11%、プロフェッショナル2%、その他3%。2021～2023年度の中期経営戦略では収益性を重視する戦略に転換、最終年度に営業利益率15%という高い目標を掲げている。高価格帯スキンケアブランドを中心としたスキビューティー領域に経営資源を集中し、非中核事業の見直しを進める。既にヘアケアなど日用品事業の売却、ドルチェ&ガッバーナ社とのライセンス契約解消を発表。2023年度の「完全復活」に向けた新たな施策の実行も期待される。



## 中国・欧米が好調、上期は会社想定を上振れ

21. 12期・第2四半期累計（1-6月）の連結業績は、売上高が5,077億円、前年同期比22%増、営業利益が230億円、同264億円増（前年同期は34億円の赤字）。低調な国内を海外がカバーし、会社想定を上回った。特に中国本土の成長加速とトラベルリテールにおける中国海南島の免税販売増、ワクチン接種の普及に伴う欧米の需要回復が寄与した。当期利益はドルチェ&ガッバーナ社とのライセンス契約解消を含む構造改革に伴う特別損失の計上により赤字となった。

21. 12期の通期会社計画は、売上高が1兆670億円、前期比16%増、営業利益が270億円、同80%増。世界的な新型コロナ感染再拡大の影響を懸念し計画を据え置いたが、外部環境を精査した上で通期見通しをしかるべき時期に改めて公表するとした。通期計画に対する営業利益の進捗率は85%に達しており、上方修正の期待は高い。中期経営戦略に基づき、事業ポートフォリオの再構築と欧米事業の構造改革は今期中の完了を目指す。また、スキビューティーや中国など成長領域への投資を継続し、アフターコロナに向けた経営基盤の強化を進める。

## [株価動向・投資判断]

スピード感のある構造改革が評価されよう。中期経営戦略の目標達成は容易ではなかろうが、改革の成果が見られ始めていることから中長期での収益成長が期待できよう。

<4911 資生堂 業績: 日本基準>

[ 今期予想の配当金は発行会社予想 ]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19. 12	1,131,547 ( 3)	113,831 ( 5)	108,739 ( ▲ 1)	73,562 ( 20)	184.2	60.00
20. 12	920,888 ( ▲ 19)	14,963 ( ▲ 87)	9,638 ( ▲ 91)	▲ 11,660 ( -)	▲ 29.2	40.00
21. 12 予	1,067,000 ( 16)	27,000 ( 80)	27,000 ( 180)	35,500 ( -)	88.9	50.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/8/13)	7,609 円
年初来高値 (高値日)	8,384 円 (21/6/16)
同 安値 (安値日)	6,517 円 (21/1/13)
予想 P E R (21. 12 予)	85. 6 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,201. 8 円
P B R	6. 33 倍
予想配当利回り	0. 66 %
(1株当たり配当金年50. 00円)	
R O E (20. 12)	▲ 2. 4 %
発行済み株式数	40,000 万株